

用途ラベル：自己紹介停止の瞬間

会話が止まる、その瞬間に

現状の確認

「何してる人？」で言葉が止まる / プロフィールがあるのに伝わらない
会話がそこで終わる / 発信しても思い出されない



「なんか良さそう」で終わり、相談も依頼も起きない

印象の空白を埋める「入口」の不在

人は「名前」で覚えない。 「役割」で分類する。

- 頭の中の「箱」に入れて記憶する
- タグがない人は分類できない
- 分類できない人は記憶に残らない

記憶の断絶

発信が流れて終わる理由

相手の頭の中に「保存すべき場所」が作られていない

「分類不能」な自己紹介

伝達の不備

盛り込みすぎて焦点が消える
抽象語だけで映像が浮かばない
かっこよさ優先の言葉

読者との距離

役割が見えない肩書き
読者が自分事にできない
記憶のフックがない

正確さよりも「分かりやすさ」が足りない状態

記憶に刺さる「印象タグ」

「〇〇の人」と言える役割

誰かが他人に紹介できる言葉を置く

名前はあと。役割が先。

記憶に残る「入口」を設計する

自分を説明するのではなく、相手の記憶の箱を創る

「必要な時に」思い出される

自己紹介 → 会話の続きが生まれる

プロフィール → 紹介の入口に入る

発信内容 → 役割で覚えられる

相談の機会 → きっかけが生まれる

三秒で理解できる「一文」

- 何をしている人か（役割）を書く
- 誰のための活動か（対象）を書く
- どんな変化を起こすか（価値）を書く
- **三要素を一文でつなぐ**
- 三秒で理解できる言葉に削る
- 口に出せる長さに整える

迷った時に立ち戻る「設計図」

自己紹介設計の確認 / 印象タグの点検

発信前の入口チェック / 名乗りのズレ修正 / 基準点

思い出される言葉を再構築するための場所

言葉を定め、入口を拓く

自己紹介を一文で書く

抽象語を具体語に置き換える

誰の悩みか + 変化の一言を入れる

止まったら再確認。役割が明確になれば、一步は軽い。